

第9回教育委員会定例会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会定例会	
事務局（担当課）	教育部庶務課	
開催日時	平成27年9月9日 午後2時	
開催場所	教育委員会室	
出席者	委員	菅谷 眞（委員長）、千馬 英雄、渡邊 靖彦、三田 一則（教育長）
	その他	教育部長、庶務課長、学務課長、学校施設課長、指導課長、教育センター 所長、統括指導主事2名
	事務局	庶務課庶務グループ係長、庶務課庶務グループ係主事
公開の可否	一部公開 傍聴人2人	
非公開・一部公開の 場合は、その理由	第41号議案、報告事項第1号、報告事項第10号、報告事項第11号、報告事項 第12号は人事案件のため非公開とする。	
会議次第	第39号議案	教育に関する事務の点検・評価の実施及び委員の委嘱 について
	第40号議案	区立幼稚園保育料の減免について
	第41号議案	臨時職員の任免
	報告事項第1号	授業改善ヒアリングの結果について
	報告事項第2号	平成27年度 としま教育フォーラムの結果について
	報告事項第3号	平成27年度 豊島区一能代市 子ども交流事業 (豊島区)
	報告事項第4号	平成27年度 若手教員育成研修1年次 宿泊研修会実施の 報告
	報告事項第5号	夏季休業中の児童・生徒の活躍について
	報告事項第6号	平成27年度 秋の全国交通安全運動の実施について
	報告事項第7号	平成27年度 区立小学校入学相談会・中学校入学説明会 の開催結果について
	報告事項第8号	巣鴨北中学校改築に伴う基本・実施設計業務プロポーザ ルの結果について
	報告事項第9号	平成27年度 教育員会後援名義使用の承認状況について
	報告事項第10号	臨時職員の任免
	報告事項第11号	臨時職員の任免
	報告事項第12号	非常勤職員の任免

菅谷委員長)

それでは、ただいまより第9回教育委員会定例会を始めたいと思います。

本日の署名委員は、千馬委員と渡邊委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。傍聴の方がお二人いらっしゃるようですが、お認めいただけますか。

(委員全員了承)

(1) 第39号議案 教育に関する事務の点検・評価の実施及び委員の委嘱について

<庶務課長 資料説明>

菅谷委員長)

今のご説明について、ご意見あるいはご質問はございますか。

千馬委員)

まさにこの三つは、私も関心を持っていたところでして、大変着眼としてはよろしいのではないかと思います。

1点目の幼児教育は、しばらく豊島区では評価の対象外であった施策であり、今、大変力を入れていますので、幼小連携も含めて、ぜひこれは評価していただくのが妥当ではないでしょうか。

それから2点目の学校図書館の整備ですが、私も図書館経営協議会の委員をしており、図書館についてはかなり注目しています。豊島区も、図書館の専門の先生がついて、かなり司書が活躍されているという現状がありますが、それをまた違う視点で評価して、精査していただくというのはいいのではないのでしょうか。

それから、3点目は今、一番課題になっているセーフスクールです。このあたりもよく見ていただく中で、きちんと評価していただく必要があると思います。

この3点については、大変やっていただきたい項目だという感想を持ちました。

渡邊委員)

豊島区教育ビジョン2015を考えてみても、幼小中の連携によって子供の学びを充実させるというところで、過去に幼稚園が視察対象となっていなかったことを鑑みると、一番の入り口の部分をよく見ていただいて、今、進めている施策が妥当であるというご評価をいただくと大変すばらしいと思います。

また、学校図書館の整備についても、ここ数年間、かなり学校図書が充実し、司書の配置で利用度も高まっており、使いやすくなって、子どもたちに読書を勧める環境が整ってきていると思います。図書の充実は予算があつてのことなので、その辺をしっかり見ていただいて、ご評価いただければありがたいと思います。

さらに、インターナショナルセーフスクールの取り組みも、先程、今後さらに2校続けて認証を目指していくという話がありました。区内全校で取得という希望があるかと思えますので、その辺の取り組みの成果が各学校だけではなく、地域コミュニティにも発展しているという実態をよく見ていただき、ご評価いただくとありがたいと思います。

この3点を評価していただけるというのは、まさにタイムリーであるという感想を持っています。

三田教育長)

まず1点目の幼児教育の充実につきましては、背景に、これまで豊島区の区立幼稚園は4、5歳児の教育をしており、3歳児は除かれていたのですが、このままでいいのかといった部分があります。特別支援教育については、6%から10%前後の出現率があると言われており、幼稚園でいうと、公立幼稚園が100%に近い形で担わざるを得ないという中で、このままでいいのかという問いかけが必要となってきています。

それから預かり保育についても、始めてから3、4年経過しましたが、今の保育時間で果たして親のニーズに合っているのかという懸念があります。子ども・子育て支援法ができて、もう1年になろうとしています。豊島区の保育課は幼小一元化という形ではなく、現状の保育園のままでいくという判断をしています。一方、教育委員会は幼稚園をどうするのかといったときに、まだ現状でそれ以上どうするのかという決断をしていません。

幼児教育全体の基盤が変わろうとしているときに、外部からどんな評価を受けるのか、またそうした評価を幼児教育の充実はどうつなげていくのかという視点で、これまで十分に議論してこなかったと思います。スタートカリキュラム、いわゆる幼小連携の部分のカリキュラムも、「幼小中一貫教育連携プログラム」と言っておきながら、まだ十分確立していません。ですから、幼児教育全般にメスを入れて見る必要があります。あえて評価を受けながら、子どもも痛みを感じつつ、ぜひ改善していきたいというのが一つの眼目でございます。

それから、2番目の学校図書館の整備につきましても、新しく図書館司書を導入して、どういう一定の評価を受けるのかということと、図書館司書を活用した読書推進のあり方についても、まだ一步足りないところがあると思っています。昨年、「R&Cフェスタ」ということで、読書と言語活動を、英語のリーディングも踏まえて行い、非常に斬新的ではあったのですが、今後、学習指導要領の改訂が間近に迫っているということもありますので、そうした先のものを見ながら、現状をどう改善していったらいいのかというご指摘をいただきたいと思います。

それから、3点目のインターナショナルセーフスクールにつきましては、先の総合教育会議で全校をセーフスクール化していくということを掲げましたので、4校を対象にしながら、そうした基盤をどこに求めるかということでございます。今日はたまたま午前中、救急の日なので、高野区長と一緒に豊島消防署で、人命救助、救急救命等で効果を上げた団体の表彰式に参加してきました。豊島消防署管内の4中学校全校が表彰を受けました。校長先生がお越しになっておられ、消防署長から表彰状を受けたのですが、私も大変うれしく思いました。署長からは、豊島区の学校はセーフコミュニティと連動して、セーフスクールの取り組みに相当力を入れて取り組んでいるといったお褒めのお言葉がありました。今後の課題として、救急救命法を学ぶだけではなくて、指導者としての講習もあるような

ので、保健体育の先生にもぜひ頑張ってもらいたいと思います。セーフスクールの学校では、学校全体で子どもたちが救急救命法に関してきちんと訓練を受けていて、困ったときに何でも対応できる安全の担い手になっていくということも大事ではないかと思います。

それから、豊島区教育ビジョン2015の後期5年計画の中で、計画的に3項目ぐらいを毎年取り上げて、事業全体を見渡していくということで、重点項目について切り込んでいくスタートとして、今回の提案をさせていただいているということをご理解いただければと思います。

菅谷委員長)

今回のテーマは非常に良いタイミングで選ばれたと思いますので、それについて、非常に期待をしております。

一つだけ、今まで何年間か、各事業についていろいろと評価していただいたかと思いますが、教育委員会事務局として、評価に基づく改善点といったようなものが、今まで多少あったのかどうか、教えてもらえますでしょうか。

庶務課長)

これまでの評価によると、大体、Aは「評価が高い」、Bは「適正」、Cは「評価が低い」という内容で、A評価が多く、B評価が少ない傾向がございました。そして唯一C評価だったものがありました。それは、平成24年度に取り上げた学校ICT機器の整備・活用でございまして、豊島区はこの当時、ICTの整備状況が遅れており、大変厳しい評価をいただきました。それから毎年改善を重ねて、平成27年度には、全国でもトップクラスのICT環境が整いました。具体的には、子どもたちの学習支援のためのタブレット端末や電子黒板の全校配備、教員職員の負担軽減を図るための校務支援システムの導入などが達成できており、評価をいただいた中で、一番大きく改善された事業ではないかと考えております。

指導課長)

昨年度ですけれども、安心安全な学校づくりに関する施策について、点検・評価をいただきました。その中で、ハイパーQUについては、学校からの評価も高く、また非常に効果的だということで、年2回の実施をすべきとして、大変高い評価をいただきました。こういったお声が大変大きな後押しになりまして、今年度は2回実施することができたということがございます。防災教育しかり、がんに関する教育しかり、スクールソーシャルワーカーの配置等々、様々な面で非常に前向きなご提言をいただいております、それが反映されているところでございます。

菅谷委員長)

今のご説明で非常によくわかりました。全体的に非常に良い評価をいただいております、実際に私たちもそう感じておりますので、大変ありがたく思います。また、一部の事業で改善点を指摘され、それが大きく改善されておりますので、この評価自体が有効に働いているということがわかりました。どうもありがとうございました。

(2) 第40号議案 区立幼稚園保育料の減免について

<学務課長 資料説明>

菅谷委員長)

今のご説明について、何かご意見、ご質問はございますか。

住民の方にとっては有利に改正されていますから、特に問題はないかと思います。よろしいでしょうか。それでは、この議案につきましては了承いたします。

(委員全員異議なし 第40号議案了承)

(4) 報告事項第1号 授業改善ヒアリングの結果について

<指導課長 資料説明>

菅谷委員長)

今のご説明についてご意見、ご質問はございますか。

三田教育長)

私も、今回この表を見させていただき、特に関連する評価項目であるA3、これが非常に私自身、有効な評価項目だと改めて感じているところです。1番、2番については、私も現場にいるときはいろんな意味で参考にさせていただきましたが、児童・生徒の声というのがやはり一番大事です。もちろん学校長は自己評価ですから、評価そのものも大事ですが、それについて、児童・生徒がどう反応するかということにまで評価項目を広げて丁寧にやっていただけたというのは大変すばらしいし、必要なことだと思います。生徒・児童が学校の経営努力にどう応えているのかということが一番大事だと思いますので、ぜひ今回のこの成果を次年度にも生かしていただきながら、全体的な傾向と同時に、一人一人の学力を高めていくところに結びつけていただけたらありがたいと改めて思いました。

菅谷委員長)

渡邊委員、保護者の立場も含めて、どうでしょうか。

渡邊委員)

こういうところで必ず学校側の自己評価というものが出てきて、これは当然、現場の先生方が自分たちでどうしたかということになるかと思いますが、今年度の評価で、例えば1番目の説明責任、保護者に学校の取り組みが理解されているかというような項目は、去年はどうだったのか気になるところです。12番の学校がCになっているのは、どういう理由なのでしょう。学校側の説明が足りていないということなのか、一生懸命やっではいるけれども、それがなかなか届かないということなのか、その辺りがあやふやな感じを受けます。

恐らく、先生方は一生懸命やっではいらっしゃるので、AとかBという評価になると思いますが、それがその次にどうつながって、成果がどう出ているのかということが気になるところです。

学力調査の結果を拝見しても、○が全然ついていない学校で、尚且つ、前年度と比較し

て達成率が向上した教科もないという学校は、達成率に達していないからよくないということなのか、それとも、もともと達成率がかなり高いので向上の余地がないのか、その辺が少し分かりにくいと思います。

あとは、全校的に見ると、地域性や学校の特性があるので、一概に、どれも全て向上しているとは言えないかと思いますが、各学校の取り組みについて指導がなされている中、その指導に対して学校はどう応えているのでしょうか。現場の先生は皆さん一生懸命やっていたらいいとは思いますが、子どもに対して届いていないような場面があれば、それは学校の中で限界ということも考えられます。指導課から、より強力な指導がなされ、その学校の成果に結びついていくこともあろうかとは思いますが、その辺についてどうなっているのか、わかればお答えいただきたいと思います。

3番目の項目に関して、本当に頑張っている学校は、この表を見るだけですぐわかります。一方、○がついていない学校に対しては、もっと頑張ろうと指導課から言ってもらって、学校側もそれに応えるという姿勢を持ってほしいと思います。今年ダメだったから来年もダメだということのないよう、ぜひ来年はトップを狙うというような意気込みがあつてしかるべきかとは思いますが、その辺に対しても、指導課からどのように指導されているのかを伺いたいと思います。

指導課長)

まず、説明責任のところでは、12番の学校につきましては、授業改善プランの中では、学校だより、学年だより、豊島公開授業、保護者会等の機会を捉えて理解を図っていて、ホームページ等でも公開をしているということをお話しさせていただいております。ただ、この学校では外国籍の保護者の方が3割以上いるということもあつて、保護者と具体的にやりとりをすると、わかっていらっしゃらないというような悩みをおっしゃっていました。ですので、学校の状況によって、学校としては、やっちはいるけれども、なかなか浸透していない、手応えが余らないというようなところからCになっているところが多いようです。前年度と比較すると、ABCの割合はほぼ同じですが、昨年度と比べてCがBになったり、BがAになったり、その辺のばらつきはございます。

それから、もう一つ、○もついていない、前年度と比較して達成率が向上した教科もないという学校についての評価に関して、今回は、6年生ですので、去年の5年生のときの学習状況を中心に、プランに挙げていただいております。例えば、全部が全部ではありませんが、1番の学校あたりでは、概して達成率は高いけれども、今の学年の子どもたちの特性として、なかなか成果が出ないというような話があります。これは当然、教師の指導にかなり問題があつたと思いますが、その問題のありようについては、学校でも理解をしまして、今、学年だけにとどまらず、学校全体で研究活動を進めながら改善を図っているということがあります。

また、例えば18番の学校では、2年前が一番低い状況でした。そのときには、1学期に研究授業もまだやっていない、計画中だという話であつたので、もう他の学校は、1学

期の4月当初からずっと研究授業を計画的にやっていますというお話をさせていただきました。やはり、プランも良いのが、具体的に行動すべきではないかというような、少し厳しい指導をした記憶がありますが、この学校は二重丸の教科が増え、成果が出始めているという状況です。特に授業改善推進プランでは、教育長をはじめ、教育部長にもご同席いただいて、個別に細かく指導していただいておりますので、それを行動に移さないといった学校は私が見る限りないと思っております。

また、指導課訪問等で指導主事が各学校に行って授業を見て、直接先生方とお会いして指導するといったことも、地道な取り組みではありますが、繰り返して行っております。今後、このヒアリングを受けて、各学校がどういう取り組みを実際に始めたかということをつぶさに把握をした上で、また、委員の皆様にご報告ができるよう準備をしてまいりたいと考えております。

三田教育長)

今、渡邊委員からここに○がついていないというご指摘がありましたが、例えば、具体的に申し上げますと、6番と8番についていません。それから17番も。ところが、昨年や一昨年と比べると、格段に伸びています。ただ、平均よりは上がっていません。しかし、来年は軽く平均を超えるという手応えを感じています。

今年、授業改善のスタートラインにまだ立っていないとか、計画倒れという印象を受けた学校は各校もございません。どこの学校も皆すごく頑張っています。

それから、例えば達成率じゃなくて、平均点という見方をして順位をつけていくと、いつもランクが同じ、変わっていないように見える学校が、かつてはありました。そういうところは、伸び幅で見たらどうかというと、余り伸びていないという特徴もあります。

それならば学力の正体は何かというと、点数で見られる学力というのは、全体学力の4分の1ぐらいです。あとの学力は、質的な評価にしていけないとなかなか数値化できない。私たちはそれを前提にやっているのだから、そこだけで上がった、伸びたという言い方は、学力に対して全面的な視野に欠ける発言だと思います。ですがそうは言っても、読み書きの基礎とか、応用問題というものはやはり大事なもので、そういう点からすると、全体としてスタートラインには着実に立って、もうスタートを切っている。ただ、目標値に対して、少し時間がかかっている学校と、今まさにその効果が上がってきている学校との違いが、○がつく、○がつかない学校の違いというふうに思います。

それから、もう一つの特徴として、今までずっと全体の枠の中で見てきましたが、今年、私は、徹底的にケーススタディーをやってほしいと指摘しました。学校の中で、伸びているお子さん、止まっているお子さん、下降しているお子さんとで、どこにそういう要因があるか個別に分析してもらいたい。最終的には、一人一人を時系列で見ながら、その変移や指導方法がどう成果として表れているのかいないのか。授業を改善したけども、子どもにとって果たして合っているのか、その辺のマッチングの問題をしっかりと検討してほしいと指摘させてもらいました。

全国学力調査の結果を見ても、今の豊島区の子供たちの到達点は立派だと思います。小学校6年生の算数の応用問題では、第2位の福井を抜いています。本当に嬉しくなりました。実際にヒアリングをしてみると、豊島区の小・中学校が全校一丸となってやっている。幼稚園でも、人間形成の土台となる部分ですごい努力が始まっているということを感じています。私は今年で教育長7年目になりますが、今年は最高の到達点にいるという印象を持っています。それだけに、今後のハイパーQ Uで、子どもの人間関係と学力にどういう関係が出てくるのか。それから、体力と道徳に力を入れているところは学力にもつながっています。つまり、落ちついて学習に向かい、良い人間関係の中で学び合うことができていることで、言語活動も豊かになるし、自分の自己肯定感、学びがいを身につけることと関連しているということに非常に感じました。ですから、指導課が指導している方向性というのは確かな方向であるということです。自信を持って良いと思います。

それから、参考までに、これは私の言い方になってしまい、指導課長と違っていたら申し訳ないのですが、3番の評価一覧の関連する項目の中で、言語活動とふるさと学習、それから体力向上あたりは、能代市との教育連携の中で私たちは深く学んでいます。もちろん、文科省も方針を出しています。けれど、具体的な姿から学んだという点では、能代市の授業改善というのは役立っています。また、ふるさと学習というものに対して子供たちは誇りを持っています。先日の能代市の齊藤市長さんのご講話の中で、先生と幼少期に母親を亡くした子供との話があり、大人になってお医者さんになったという話です。子供時代に苦しんでいるときに先生が抱きしめてやり、その時に母親のにおいがした。その思い出が励みとなって、結婚式のとときに先生を招待して母親の席に座ってもらった。こうした人間同士の絆を私は誇りに思うという市長さんの発言を、校長先生たちが目頭を熱くして聞いていらっやったという話を、私は非常に、嬉しく思いました。私も、本区では単に学力だけ上げれば良いというのではなく、知徳体の調和のとれた教育をやっていこうということで、いじめの問題にしても、様々な形で取り組んでいますし、能代市との教育連携というのは、一層調和の取れた確かな学力を伸ばしていくという点でも、大きな力になっています。

以上の3点を大きく感じていましたので、補足させていただきました。

菅谷委員長)

どうもありがとうございます。

今の渡邊委員の発言と同じく、私もこの表を見て、○印がついていないところが、ぱっと見たときに気になる点です。実際のところは、今、教育長や指導課長からもお話がありましたが、結局、もともと平均点が高ければ、当然伸び代は少なくなるので、これは○がつかないのがある意味で当然ですし、全然丸印がないところで、3番目の評価で見ると、例えば1番、2番のところでは二重丸が全部ついています。つまり、もともとレベル的には非常に頑張っているところだということはわかるので、それは、○印がつかない部分のところの評価を、ちょっと考えると、それなりにわかることかなと思うのですが。

あと、一つ、私は、授業の取り組みに対する自己評価というところで、教員間の共有という項目が結構大事だと思います。例えば、幼稚園のところの41番がCという評価がついています。これは何か特別な理由でC評価となったのか。確かに幼稚園は人数が少ないので、人数が少ないと大人数よりは比較的余裕ができそうにない気がします。それがC評価となったのか。

この項目については、ほとんどのところがAあるいはB評価で、それぞれに頑張っておられるますので、そこが少し気になったところです。もし何か理由がわかれば教えてください。

指導課長)

こちらの41番につきましては、職員が体調不良でお休みをしております、その影響もあって打ち合わせがスムーズにいかないというようなことで、幼稚園長が自己評価をしたものでございます。

三田教育長)

私も評価表を見まして近年になくよくできたと思います。いつも考察がないということで、私から苦言を申し上げていましたが、今回は非常によくできています。ただし、今ご指摘いただいたことは確かなことです。空白のところは何かと言われて、説明を聞かないと分からない。やっぱり評価表というのは一見して分からなくてはなりません。

例えば、○は、出発点はともかく、頑張り始めて上向きになっている学校、◎は、都又は区の全国平均よりも上という様な書き方をすると、全体的に上向きなのか、すごく上向いたのかということが分かります。少しそこに手を加えれば、今のようなことがもっと良くなると思うので、是非、そういう改善をしてもらいたいと思います。それから、あと2点つけ加えて言うならば、先程申し上げた様に、個別的な課題に対する評価というものがこの評価表にはないので、その評価項目がなければ、学校はやってもやらなくても評価されないのではやらないことになってしまう。だから、今後そういうことを評価に加え、ケース毎に個別対応する。そして、基礎・基本ができていない子供たちに、これから授業化していこうとしている学力補充などの様々な取り組みを実施していくことで、効果が測定できると思います。それからやはり上位層をどうやって伸ばしていくかということは大変大事なことだと思います。

例えば、中学校で行っている漢検や英検、数検が、実際に学力調査とどういうふうにクロスしているのかということもきちんと見ていく必要があると思います。子供にやれやれと言って、後は何の評価もしないのはよくない。やはりやったことに対してきちんと評価してあげることが大事なことだと思うので、そういうことが分かってくると、子供はもっともっと自発的に頑張れるのではないかと思います。そういう評価項目を是非入れてほしいと思います。

実際のヒアリングでは、全園長、校長、副校長、主幹といった幹部が来て、それぞれと直接話をするわけですから、隠し事はなしです。実態が全部赤裸々に分かります。だけど、

そこで感じた実感というものを、指導課長なり指導主事が、少しコメントとして、この学校にはこういう特色があって良いとか、指摘するところがあれば、1点ぐらいに絞って、マイナス思考ではなくてプラス思考で、こういうところに改善の余地があるというようなことで、言葉で表現する。いわゆる数値化、数量化された定量的な評価と同時に、実質的な評価として、感情が伝わってくるような評価ができるのではないかと思います。

これを見たときに、学校の先生方は、すごくやってよかったとか、私たちがいつも言っている教えがい、教育のすばらしさというようなものを実感としていただけたと思います。是非これを今後先生方の励みとなるような形で返していただき、2学期、3学期、文字通り、授業改善ヒアリングが学校の力になっていくよう活用してもらいたいと感じました。菅谷委員長)

どうもありがとうございました。

全体として、この授業改善ヒアリングについては、年々成果が上がってきているということで、今回も非常に良い評価をしていただいたと思います。今後ともこれを活用して、さらに良い結果が出るようお願いしたいと思います。

それでは、この件につきましては、これで終了いたします。

(5) 報告事項第2号 平成27年度 としま教育フォーラムの結果について

<統括指導主事 資料説明>

菅谷委員長)

この間のフォーラムには私たちも参加させていただきましたが、テーマも非常に良かったです。また、先生方が非常に熱心に討議されていたので、本当にすばらしいと思っています。3回目ということで、テーマが毎年いろいろと変わってきていますが、テーマの選び方が非常に良いと思います。特に、都市型環境教育というのは、考えてみると、豊島区のようなところで環境教育というのは非常に難しいテーマかなと思いますが、その中で新庁舎を上手く活用しながら、非常にアイデアに富んだ内容だと感じました。

委員の方から何かご感想等ありましたらお願いいたします。

渡邊委員)

この間のフォーラムは、全員の先生に参加していただいて、能代市への交流派遣団ではない人たちと、直接、情報共有ができたというところでは、とても素晴らしいフォーラムだったなと思います。

学校で考えると、小学校、中学校どちらかに偏りが出てしまうのは当然避けられないと思いますが、今盛んに行っているのは、小学校のほうが数も多いので、そこで培われたものを、実践していきたいこととして書いている、中学校ではさらに科学的根拠に基づいて、発展させた学習につなげていくということを先生方が思ってくれているというのは、まさしく教育長が狙っている幼小中連携で、最終的にこうだという目標に、みんなの目が、意欲がそういう方向に向かっているということを実感できたフォーラムだと思います。今

年がいいと、来年もまた大変かもしれませんが、期待が高まっていると同時に、先生方の力になっているので、来年も今年以上のものにしていただければと思っています。

千馬委員)

私も、3年間、このフォーラムに参加させていただきました。私なりにこのフォーラムの教育効果というものを少し考えてみると、特に三点あると思います。

一点目が、このフォーラムに参加することによって、先生方に授業改善に結びつく内容が示される。つまり、具体的な実践事例を通しながら、なるほどと、うなずいておられる先生がかなりいます。このフォーラムの一番の狙いとはそこにあると思います。

今回は、能代市と豊島区の実践が両方出され、毎回そういう形で行われている面もありますが、特に今回はよかったと思います。

二点目が、やはり能代市との教育連携の成果を具体的に学べる、能代市に行った先生だけではなくて、間接的ですが、能代市との連携をその場で年に一度学べるというのは貴重な機会だと私は思います。もちろん行けたら一番良いのですが、行かなくても、間接的に教育効果を教員が学び、教えがいにつながるということが非常に有効だと感じました。

最後に、これは三田教育長がいつも言っている、豊島区への関心です。私も校長のときはそれを非常に大事にしていますが、やはり生まれ育ったふるさと豊島区の自然や環境を、校長も含めてまず教員が具体的にわかっていないと良くないと思っていました。

そういう意味でも、今回、都市型環境教育ということで、校長先生をはじめ先生方に、豊島区の自然、あるいは都市における環境教育を改めて勉強し直す機会をもらえて、非常に幸せだと思いました。ぜひ児童・生徒のためにこの機会を活かしていただけたいと思いました。

菅谷委員長)

どうもありがとうございます。

千馬委員のお話は、ご自身の校長先生としての体験から出てくる非常にわかりやすく共感できる内容だったと思います。

非常に良い教育フォーラムだったと思います。この辺でこの議題については終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

(6) 報告事項第3号 平成27年度 豊島区一能代市 子ども交流事業 (豊島区訪問)

<統括指導主事 資料説明>

菅谷委員長)

今のご説明に何かご意見、ご質問等ございますか。

渡邊委員)

この子どもの交流は、豊島区からも行っているし、能代市からも来ていただいている。豊島区の子供たちの話を聞いていると、最初は少し抵抗があったみたいですが、誰よりも行きたいと思う子供たちが増えているというのは、まさしくこの事業が子どもたちにとつ

で魅力のある事業となっているのではないのでしょうか。

今回のご報告で、2日目の生徒会交流というのが本当に、単なるまちとまちの交流ということではなくて、子供たちがお互いをより深く知る良いきっかけになっていると思います。

確かに修学旅行で東北地方から豊島区へ来られることがあるかもしれないが、都会的な部分だけでなく、ここにも書かれているような下町的な部分も豊島区はすごく強いので、そういうところも理解してもらい帰っていただけるというのは、とても意義があることだと思います。また、豊島区から訪問している子供たちも、単に地方というだけではないことをわかっていて、先ほどの先生同士の交流とあわせて両輪で、より実を結んでいるということをおの報告を聞いて実感することができました。

菅谷委員長)

どうもありがとうございます。渡邊委員が保護者の立場から子供たちの反応を実際にお話ししてくれまして、大変参考になりました。

千馬委員、何かございますか。

千馬委員)

豊島区の中学生と仲良くなれたという感想があって、大変成果が出ているのはありがたいと思います。

1点質問ですが、このイングリッシュキャンプというのは具体的にどのような内容なのか、教えていただけますか。

統括指導主事)

イングリッシュキャンプの内容といたしましては、立教大学に通っている留学生、いろんな国の留学生がいますが、留学生と中学生が英語のみで会話をします。例えば、豊島区の中学生、能代市の中学生は、自分の家族や学校のことを全て英語で紹介します。また、留学生も、日本のことを余りよく知らないので、3月の豊島区の中学生だけの交流のときは、中学生が羽根つきを持ってきて、実際に日本の遊びを一緒にやったりしました。留学生2人に対して中学生8名程度の小グループで、半日グループ活動を行います。

三田教育長)

いろいろと教育委員会同士で連携し、能代市は生涯学習も絡んで田舎体験という企画を組んでいただきました。

私が能代市をたびたび訪問して、強く感じているのは、豊島区はどちらかというと学力連携に重きを置きアプローチをしていますが、能代市は、市長さんが言う通り、誇れるわがまちを見てほしいといった感じです。つまり、伝統的な文化や行事、例えばうちで言うと長崎獅子舞みたいなものが、20~30社もあります。そこで、大きいところでは200人ぐらいの小中学生や青年が担い手となって伝統文化を継承しています。そこにいる古老と中堅層の指導者、そして子供たちが人間関係の中で文化や社会性を身につけています。自分たちのふるさとを誇りに思っています。

では、豊島でそういうことを考えたときどうだろうかという、やはり都市型というか、コミュニティはあるけれど、流入人口も多く、街のしっかりとした人間関係の中で育っている部分とそうでない部分が混在しています。

そういうところを相互交流することによって、都市の利便さの中で学べること、それから、田舎に残っている素晴らしい文化や歴史というものに豊島区の子供たちが触れることのできる環境をできるだけ作ってあげて、よい人間関係、友達関係ができていくと良いと思います。

いずれにしても、予算上無理のない程度でやっていきたいと思いますというのがお互いの約束事なので、大幅な人数拡大というのは無理かもしれませんが、少人数だけでも効果的にやっていきたいと思っています。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。

私の方から、豊島区の子供たちは立教大学で行われるイングリッシュキャンプに何名ぐらい参加しているのか教えてください。

統括指導主事)

イングリッシュキャンプには、各中学校から2名ずつ参加し、能代市の中学生とともに行っております。豊島区のみでも昨年度2回実施しました。昨年度の話ですが、豊島区と能代市の生徒が交流する中で、英語で何とかして留学生に話を伝えようと共同して、協力関係が生まれたりしています。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。

こういう機会を通じて、イングリッシュカンパセーションについても、それなりの成果が出るのではないかと思います。

この件については、来年度以降もぜひ続けていただきたいと思います。

(7) 報告事項第4号 平成27年度 若手教員育成研修1年次 宿泊研修会実施の報告
<指導課長 資料説明>

菅谷委員長)

宿泊研修会には私も実際に参加し非常に楽しかったです。おそらく、他の委員の皆さまも同じような感想をお持ちではないかと思いますが、お一人ずつご感想をお願いします。

千馬委員)

私自身3回、参加の機会をいただいたことに、まずはお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私の自身の経験を後輩に伝えたいという思いがあって、そういう機会をいただいて、私自身にとっても大変いい勉強になりました。それなりに研修生に学んでいただけたのではないかというふうに思っています。これからの長い教員生活に役に立てていただけたらあ

りがたいです。

菅谷委員長)

それでは、渡邊委員いかがですか。

渡邊委員)

昨年と今年と2回参加させていただいて、本当に感謝しています。

自分がPTA会長だったときのお話をさせていただくと、校長先生などとは当然話し合いをする機会があって、保護者はこういうことを望んでいると伝えられますが、一般の先生方にはなかなかそれを伝えるチャンスはありません。先生方がご苦労されるのは、結局、保護者が何を考えているのかというところをつかみ切れていないところだと思います。だから、一生懸命頑張っているはいるけれど、ちょっとしたボタンのかけ違いで成果が出てこないというところがあります。

いろいろな学校行事等を通して、話をするチャンスはつかめますが、豊島区に来られた1年目の先生方と直接お話しできるというのは、保護者にとっては大変ありがたい話です。本当に保護者は初任の先生たちにはもっともっと育ててほしいと願っています。立派な先生だねとみんなに思われるような、そんな人物になってほしいという期待をみんなが持っています。

それを伝えるチャンスというのは、なかなかないかもしれませんので、こういう機会を通して伝えさせていただけたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。

三田教育長)

私の方からは、本当にありがとうございましたということで、全ての教育委員の先生方にお礼を申し上げたいと思います。

最初に風穴を開けてくれたのは千馬先生で、千馬先生からみんなで行った方がいいよと盛んに言っていただいて、全員参加という運びになりました。はっきり言って、教育委員全員が初任者宿泊研修に参加して直接指導に当たっているというのは、全国で豊島区教育委員会だけだと思います。私は、そのことを誇りに思いますし、若手教員がしっかりと受け止めてくれているということがすごく嬉しいです。千馬先生や私の立場から言うと教師冥利に尽きると思いますし、他の委員の先生方も違った角度から、現場の先生とこうやって直接話をする機会というのはそうそうあることではないので、できれば体制の許す限り継続していきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

以上です。

菅谷委員長)

どうもありがとうございます。

私も2回目でも今回も本当によかったと思っています。千馬先生のお話、それから教育長のお話は非常にすごく分かりやすくて、おそらく新人の先生方も理解しやすかったのではないかと思います。ああいう場に私たち教育委員が参加する意義とは、若い人たちを私たちは応援していますということをは是非伝えたいからです。そういう意味で、多少は先生

方にもお伝えできたかと思っています。

皆さん、ありがとうございました。来年も楽しみにしています。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(8) 報告事項第5号 夏季休暇中の児童・生徒の活躍について

<統括指導主事 資料説明>

菅谷委員長)

児童・生徒の皆さん、いろいろご活躍され本当に頼もしい限りですが、委員の皆さん、何かご感想はありますか。

渡邊委員)

先日も区の中学校の水泳大会を見学させていただきましたが、頑張っている子供たちが大勢いました。水泳部だけではなく、各学校から一人でも多く出ましようということで、それに応えて出場してくれた生徒さんがいて、先生方も子供たちのやる気を引き出してきて、大変すばらしいと思いました。

先日の能代市の市長さんのお話の中で、「能代市はいろいろなことで表彰しています。」というお話があって、本当に子供たちの励みになっているのを感じていたところだったので、こういうすばらしい結果を出した子供たちには、あと何年か後の東京オリンピックにぜひ頑張ってお出場していただきたいという感想を持っています。

それと質問ですが、こういう大会の成績だけでなく、例えば、盛んに水曜トライアルとかでも英検を受けましようとか、漢検を受けましようとかやっていますが、その辺で一定の上位の成績を取めた子供たちに対しては、教育委員会として何か表彰をしたりしていますか。

統括指導主事)

豊島区の児童・生徒表彰につきましては、一定の水準・基準を満たした者につきまして、必ず年度の終わりに表彰をしております、これは文化・芸術・スポーツ、どの分野においても表彰をいたします。

菅谷委員長)

千馬委員、何かございますか。

千馬委員)

教えていただきたいのですが、西巢鴨幼稚園の安全運動に対する感謝状は、どういう活動が評価されたものか教えていただきたい。

統括指導主事)

これにつきましては、交通安全運動等について非常に熱心に取り組んでいただいた幼稚園、学校に対して各警察署から感謝状が贈られるもので、具体的に西巢鴨幼稚園がどのような活動をしていたかということにつきましては、聞き取りが不十分でございますので、内容がわかり次第ご報告させていただきたいと思っております。

千馬委員)

先程の渡邊委員の話にもありましたが、渡邊委員のところの池袋中学校の吹奏楽部も連続して金賞を取っています。それから、私は、たまたま第6区地区の社会を明るくする運動に呼ばれて行ってきました。青少年委員の先生方が中心となって、地域一体となって会を運営しています。全体会を支えている下の会の集まりですが、そこに西池袋中学校の吹奏楽の子どもたちが、単に金賞を取った曲を広めるだけではなくて、本当に地域の人たちと一緒にあって、いわゆるまちの音楽会という格好で演奏してくれました。学校と先生方が地域からすごい応援をもらっていて、今回は逆に協力をしている。そういう信頼関係でまちづくりを行っていると思ひまして、金賞を取ったという価値が、単に受賞したというだけではなく、生きた形で子供たちの中に活用されているということが何かすごく嬉しく思ひました。また、この成績を見ても、例えば中学校8校と池袋小学校が全校表彰を受けていますが、これは救命救急をやったの表彰ですよ。

何かもう少し、豊島区の広報とか教育だより豊島とかで特集号を組んででも、こういう子供たちの頑張りというのを発信してほしいと思ひます。できれば表彰式のときに親子で来てもらうとか、欠席で校長先生が代理でもらっているというのは何か価値が半減してしまひますので、せつかくやるのであればもう少し工夫をしていただいて、去年やったから今年も同じようにやるというのではなく、子供たちの良いことを積極的に発信できるようなアイデアを取り入れてほしいと思ひます。

菅谷委員長)

毎年こういう活躍、大変良いニュースでありがたいと思ひます。例えば、人名救助とか、そういったことがあった場合には表彰の対象となりますか。

統括指導主事)

もちろんなります。きちんと豊島区教育委員会の児童・生徒表彰の基準の中に入っております。

指導課長)

先ほど千馬委員からご質問あった件ですが、西巣鴨幼稚園が7月10日、巣鴨警察署長から交通安全功労賞というものをいただいております。この中身としましては、ハッピーウォーク週間の実施、親子交通安全教室などで、こういった交通安全の取り組みが高く評価されてのものであります。

菅谷委員長)

この件につきましては以上で終わらせていただきます。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(9) 報告事項第6号 平成27年度秋の全国交通安全運動の実施について

<統括指導主事 資料説明>

菅谷委員長)

毎年、交通安全運動が行われておりますけども、何かご意見等ございますでしょうか。

渡邊委員)

子供は交通ルールを守るが、大人は守らないです。幼稚園から小学校低学年の子供が信号が点滅していたら止まるんですが、手引いて渡るのはお母さんです。交通マナーを子供たちはよく理解していますが、大人のだらしなさによって、それが台なしになっている。いつしかそれが当たり前のごとくなっていく。ここでの話は、中学生ぐらいまでということなのかもしれませんが、高校生で自転車通学をしている子は、スマホでヘッドホンをしていて、それが交通事故のもとになっているというのも大変大きな問題で、兄弟がいれば、ぜひ中学校でもこういう取り組みをしているから、お兄ちゃん、お姉ちゃんも気をつけてねと伝えてほしいし、これも毎回申し上げていますが、豊島区は結構踏切が多いので、踏切に関して各学校で指導していただければと思います。特に今、池袋第三小学校は校舍改築中で、今まで通っていない踏切を渡って通学をしているので、学務課長をはじめとし、いろいろとご指導していただいておりますが、それがまた時間が経つと結構当たり前になってしまう。幸いなことに踏切事故はないようですが、踏切事故というのは重大な事故に至ってしまうので、せっかくこういう運動が年に2回、春と秋にあるので、そのときにあわせて、特に踏切が周辺に多い地区では、学校の校長先生からも「踏切に気をつけようね、カンと鳴ったらもう渡らない」などと注意喚起してほしいです。守れる子は守れますが、守れない子は遮断器が下りてでも行ってしまうという光景を見かけるので、是非ご指導いただければと思います。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。私も踏切事故というのは非常に重要な視点だと思いますが、踏切事故について交通安全に関する教育の中で、どこか触れられているのでしょうか。

指導課長)

各学校の安全指導の中で、また都の安全教育プログラムの中でも、交通安全の項目の中に踏切の渡り方というのはきちんと位置づいていますので、そちらに基づいて各小中学校で指導しております。

菅谷委員長)

他に何かございますか。教育長。

三田教育長)

この間、私が区の安全教育の全体会に出て感じたのですが、内部の反省点ということで言うと、もう少しセーフスクールの成果というのを全体に反映させる必要があるのではないかと。それがセーフスクール内でとどまっていると感じています。例えばヘルメット取得率、着用率に関して、セーフスクール推進校とそうでない学校とどういう違いがあるのか。それで役に立っている例があるのかないのか。それから、PTAと一緒にあってどこの学

校でも交通安全教室をやっていると思いますが、学校の教育課程に位置づけてやっているところとやっていないところではどうなのか。やっているところのメリットとして、どれだけ交通事故のデータに関連して減少しているのか。それから、もう一つ不思議なのは、教育委員会の中で交通安全とか、地域の安全対策とかというのは、学務課も関わっているわけです。ですから、指導課だけの問題ではなくて、やはり学務課からもデータをきちんと考察して資料として出すべきでないか。交通少年団の活躍だってもものすごいものがありますが、まだまだ教育委員会内部で交通少年団の役割とかの理解が不十分ではないか。警察署管内との情報交換をもっともっと密にしたほうが良いです。交通安全というのは漠として大変広い課題ではありますが、実際にセーフスクールとして取り組んでいて、さらに全校に広げようと言っているのであればなおさら、どこかその安全対策の中心になるデータを拾っていく必要があるのではないかというのがまず一つ、それから、今年言われているのは、もう罰則規定ではないけれど、自転車でも違反したら罰金を取ったらどうかということ。例えば傘差して自転車に乗ってはいけないから、それを厳重注意されたりしたら、今まではなかったが、それは今度だめということになります。そういうことを保護者の皆さんは知っているのかどうなのか。PTAとの連絡を庶務課でやっているが、庶務課長はそういうことをきちんとPTAの研修会とかで伝えて、ではPTAとしてどういう対策とりましょうと、具体的にそういう行動になっているのか。ただ、警察の情報として一方通行ではなく、今度、道交法が変わってこうだと言っているのか。やっぱりそこをきちんとして浸透していかないと、毎回悲惨な交通事故の報告が出てきてしまうと危惧します。都会だからこそ、そういうことに教育委員会としての細心の注意を払ってやっていかなければいけないと私は思うので、その辺の対応をどうしていくのかということを是非検討していただきたいです。セーフスクールを全校に広げていくために、やっぱりそのところをクリアしていかないとなかなか広がらないのではないかなという私どもの反省も踏まえ、今日の報告を聞いていて、そうした課題を感じました。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。今、教育長からご指摘のありましたセーフスクールの成果といますか、そういったものが区民の方々にどのくらい評価されているか、あるいは評価していただくような手段がとられているかといった点について事務局からお答えいただけますか。

指導課長)

朋有小学校につきましては、認証を取得した翌年度に研究発表校ということで指定をしまして、全校にその取り組みを普及しました。また、富士見台小学校も今年認証を取得しますが、今年と来年、2年間にわたり研究推進校の指定をしています。来年また研究発表もいたします。ただ、ヘルメットの着用率あたりは、やはりセーフスクールに取り組んでいる学校とそうではない学校は所持率、着用率に差がございますので、こういったあたりは、さらに普及していくように取り組んでいきたいと考えております。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。交通安全運動を毎年春と秋にやっています。しかし、区民から見ると、一般的に交通安全週間というのが、何かある意味でマンネリ化していて、要は区民にアピールする力が結構少ないのではないかと私は思っています。交通安全週間とか交通安全とかいう TENT を張ってはありますが、TENT を張っていても中に入っただけです。これは教育委員会の話ではないけども、もう少しやり方を工夫して、何かマンネリ化しないような手段を、これは警察との関係もあるのですが、そういったことをもう少し考えていかないといけない。先程、渡邊委員からありましたように、大人は何も守っていないではないかというような、まさにそういう部分があって、結局、長い間の交通安全運動そのものの成果というのが、十分区民の皆さんの中に浸透していないという印象を私は持っています。

だからやってはいけないとか、そういうことではないのですが、全体に交通安全運動そのものをやはり何かもう少しアピールできるようなものに、行政としてももう少し考えていくのも良いのではないかなと私は思っています。いずれにしても学校関係で頑張っていたくことにはなりますが、今、教育長が言われたようないろんな課題を来年度以降少しずつでも改善していけるように努力していただきたいと思います。

三田教育長)

私は、教育委員会事務局の中できちんと考えなければいけないと思っておりますが、例えば今、池袋第三小学校が仮校舎に行っています。あそこは踏切をたくさん渡っていて、安全対策を講じているのではないですか。例えば交通安全週間のときには、とりわけ何が行っていないのか、毎回同じなのか、あるいはこれまで行っているけど、何か問題や課題はないのか。周辺地域の人も相当気を使って毎回当番に出てくださいっていて、PTA も協力して、校長も毎日登校指導に出ています。そういうことが全然伝わって来ないというのは、ある意味、所管課がたるんでいるのではないかと思います。もう少し現場へ行って、子どもたちが仮校舎から本校舎に移ってくるまでの間、事故が起きないようにと頑張っていることに対して、激励をすとか、現場の声を聞いてきて改善していくとか、何かないのかと私は思いますが、その辺どうですか。

学務課長)

池袋第三小学校につきましては、仮校舎への移転の前から安全対策につきまして、保護者、学校、場合によっては区の関係機関と危険箇所を回りまして、通学案内員について何度も何度も協議を重ねて配置をいたしました。その後も大体3カ月、4カ月に1回、学校、保護者とお会いしまして、配置の位置とか、人数についてお話をさせていただいているところでございます。

その結果、27年度につきましては、踏切は3カ所となっておりますが、そのうち2カ所については両方に通学案内員が立っております。さらに午後の子供が一番帰ってくる時間帯に警備員を1名つけるという形で対応しているというところです。

また、教育長からのお話があった通り、校長先生が今、非常に熱心に対応してくださっていますので、何かあったときには連絡をいただき、他の機会でお会いすることもございますので情報交換は行っているところでございます。私からのご報告が少なかったという点につきましては、大変申し訳なく思っております。今後そういった点につきましては、機会を見つけてアピールしていきたいと思っております。

教育部長)

今回の報告案件については、まさに交通対策の關係のセクションが出す資料でございます。これを受けて、本来であれば教育委員会としてどう取り組んでいくかということを出さなければいけないと反省しております。毎年こういう形を出しているのであれば、それは大きな間違いでございますので、各学校ではこう取り組んだとか、うちの教育委員会としてはこういうふうな形で重点的に取り組んでいるとか、まさにそれを説明すべき報告案件でございますので、非常に反省しております。今後、池袋第一小学校の改築もあります。旧文成小学校を仮校舎として使用しますので、踏切対策等の大きな問題がありますので、そういった視点でご報告できるように心がけていきたいと思っております。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。

それでは、交通安全運動についての報告は以上で終わらせていただきます。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(10) 報告事項第7号 平成27年度区立小学校入学相談会・中学校説明会の開催結果について

<学務課長 資料説明>

菅谷委員長)

今のご説明に対しまして、何かご意見、ご感想等ありましたらお願いいたします。

渡邊委員)

当日は水泳大会の日だったのですが、そのときに中学校の校長先生にお会いしましたし、それより前にも小学校の校長先生とお話したのですが、先生方はとても意欲的だと感じました。うちの学校を売りこむという話を結構聞いていたので、「ぜひ売ってください」とお話しをしました。なかなか学校側から自分の学校は良いと説明する機会がないですし、学校訪問に来た人に一生懸命説明してもあまり響かないというところがありますので、今の課長のお話で大変好評だったということですので、それなりの成果が出ているものと思います。特に中学校だと部活の問題に関して、各学校でなかなか対処できずに校長先生方は悩んでいますので、全体的にそういうことを説明してくれるチャンスがあれば、この学校だけの問題ではないという、問題意識の共有とか理解が深まると思います。これだけ大勢の方が参加してくれたのは本当にありがたいことだし、企画した通りの目的が達成できた説明会になっていたということが改めてわかりました。より中身を改善して学校内容

を開示し、区民の皆さんにわかってもらって、私立ではなくて区立に行こうと思ってくれる保護者、児童・生徒が増えてくれればと期待しております。ありがとうございました。(菅谷委員長)

それでは、千馬委員どうでしょうか。

(千馬委員)

私も校長で3地区経験しましたが、こういう形で説明会、相談会というのは、豊島区が初めてでした。結構緊張しながら自分の学校の良さを何とかして伝えたいと、私も過去参加した覚えがあるのですが、今回は一歩進んでよく頑張ったと思います。区民の目線を大事にして、開かれた相談会、説明会だったと思います。私たちが開催していたころも、努力はしたのですが、各校長先生にアピールする機会がいただけるというのはすばらしいことだと思いますし、それなりの特色が出せたのではないかと感じています。それをまた見られる区民が幸せだと思います。というのは、それぞれの学校で説明会はあるのですが、単独で説明を聞くよりも、いろんな学校の説明を一度に聞くと、またその学校の良さもわかるので、良い機会で、開催の効果が出たのではないかと思います。

二点目が、隣接校選択制の意義を生かすにも、風評といったものがありまして、なかなかつらいところもありますが、そういうことを克服する意味からしても、各学校のセールスをするというのは、良い機会になったのではないのでしょうか。事実をきちんと区民に知ってもらう、保護者に知ってもらうというのは良いことだと改めて感じました。

(三田教育長)

これは一つ大きな前進ができたのではないかと考えています。今、少子高齢化社会の中で学校教育が試されていると思います。保護者であれば誰もが良い学校に子供を入れて質の高い教育を受けさせたいという思いを持っていると思います。公立だから良いとか、私立だから良いとかそういう時代ではなくて、私立は長がトップに立って学校を挙げて子供の獲得をやっているのに、公立は来る人だけ面倒を見れば良いという傾向があり、そういう学校で良いのかという時期に来ているのではないかと思います。そこを校長先生がトップに立って、自分の学校の良さや特徴をしっかりと区民の前でアピールすることが必要だと思います。そして学校を知ってもらい、もっと見てみたいと思えば、学校の個別の説明会にもっと集まってもらえるということで、結果が延べ1,000人という最大の来場者となりました。区民目線に立った説明責任を果たせたかと思いますが、先ほどから議論になっている学力の問題にしても、子供たちの活躍ぶりにしても、学校は良い情報をいくらでも発信できるはずで、そういう意味で、すごい大きな岩盤を一つ崩して、新しい一歩を踏み出したことはよかったと思います。

それと、これから各学校の学校説明で、隣接校選択制についても、保護者も子供もそれぞれに努力して学校を選ぶというのならわかりますが、あそこは学力高いみたいだからそこへ入れてみようかという、そういう何か丸投げ的な教育ではだめだと思います。やはりどこに行こうが、その子供の適性に合わせて、そういう学校の中で子供も保護者も先生も

一緒になって子供のために力を尽くしていくという、そういう体質を今つくるこれが一つのきっかけになるだろうということで、最初はいろいろと抵抗もありましたが、それをきちんと学務課長を中心に説得してくれて、とてもよかったですと思います。本質は変わらないのですが、その年々の状況に応じて形を変えたりして、質の良い教育を提案し広めていくということを今後もぜひやっていく必要があります、その意味からも今回の取り組みは大変良かったと思います。

以上です。

菅谷委員長)

今いろいろなお話を伺いましたけれど、こういう内容が少しずつ、毎年ある意味で進歩しているというか、十分な情報を発信できるような形で、しかも今年は各校長先生にPRをしてもらって、アイディアとしても非常に良いと感じました。今まさに、教育長が話された保護者が良い教育を受けさせたいというのは誰でも願うことなので、公立の小中学校が良い教育をしているということを、こちらから情報発信しなければいけないので、大変良い場になったのではないかと思います。説明会当日は、たくさんの方に来てもらい大盛況で、今こうして豊島区の教育が非常に頑張っているということが、だんだんと区民の方にも伝わって、関心が高まっているのではないかとこのように感じました。どうもありがとうございました。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(11) 報告事項第8号 巣鴨北中学校改築に伴う基本・実施設計業務プロポーザルの結果について

< 学校施設課長 資料説明 >

菅谷委員長)

これから基本設計に入るまでにいろいろあるかと思いますが、また経過を教えてください。何かご意見はございますか。

三田教育長)

これまで西池袋中学校、そして目白小学校が改築を終え、さらに今、池袋本町小中連携校と池袋第三小学校を造っています。エコスクールであるとか、緑に対する配置の問題、それから、ソメイヨシノの配置をどうするかとか、環境教育に貢献できるような校舎とか、いわゆる学習情報センター化の問題、ICTにどう対応するかとか、あと子どもたちが自然を学ぶビオトープ等の設置をどうするかとか、さらに地域の防災の拠点としてどうするかとか、あるいは、いわゆる学校を造ることで地域の街づくりの一環として街も良くなるか、いろいろ大所高所から検討して、数多くの項目をチェックしながら、限られた時間でヒアリングをしてきました。要はこれまで造ってきた学校以上の学校を造るのが私どもの命題でございまして、そういうことを必ず踏襲しながらやっていこうと考えております。今後、受託会社と正式に契約書を結んだ段階で、基本設計で培ってきたノウハウ

をしっかり継承していけるように厳しく注文つけて、期間と予算をしっかり守ってチームプレーでやっていきたいと思います。今後とも逐次情報を教育委員会に報告するとともに、学校改築についても、教育ビジョンで示しているように、着実に進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

菅谷委員長)

それでは、今後また経過の報告をお願いしたいと思います。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(12) 報告事項第9号 平成27年度教育委員会後援名義使用の承認状況について

<庶務課長 資料説明>

菅谷委員長)

何かご意見はありますか。

それでは、この件については了承いたしました。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

菅谷委員長)

それでは、これから先は人事案件となりますので、傍聴者の方はご退席をいただきたいと思います。

(3) 第41号議案 臨時職員の任免

<指導課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 第41号議案了承)

(13) 報告事項第10号 臨時職員の任免

<庶務課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(14) 報告事項第11号 臨時職員の任免

<指導課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項了承)

(15) 報告事項第12号 非常勤職員の任免

<教育センター所長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項了承)

菅谷委員長)

それでは、今日の会議をこれで終わりたいと思います。

(午後5時00分 閉会)